

令和 6 年度日本赤十字広島看護大学外部有識者会議 概要

本学が、学校運営の改善や教育活動の質向上を恒常的に進めていくため、令和 2 年度から地域や産業界、学校関係者等の学外の有識者をお招きし、客観的な視点からのご意見を伺う会議を設置しており、今年度は 7 月 23 日に開催しました。

○会議の方法と構成

次の委員の方が、本学学長及び関係教職員との間で質疑や意見交換を行いました。

- ・国立大学法人広島大学 広島大学病院 副病院長（兼）看護部長
- ・廿日市市 健康福祉部長
- ・地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立広島市民病院 副院長（兼）看護部長
- ・広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院 副院長（兼）看護部長

○令和 6 年度会議の概要

大学から、(1)大学の現況、(2)卒業後アンケートの結果について、(3)「アセスメントプラン（旧アセスメントポリシー）に基づく FACTBOOK の作成と公表、(4)「看護師のリカレント教育」および「高度実践看護職に対する臨床でのニーズについて」を説明し、それを踏まえて質疑や意見交換を行いました。

【質疑・意見交換の概要】

(1) 大学の現況

「令和 6 年度日本赤十字広島看護大学の現況」と「学校法人日本赤十字学園 令和 5 年度事業活動のご報告」より本学が昨年度取り組んだ内容について説明を行った。

(2) 卒業後アンケートの結果について

卒業後 1 年目の卒業生と就職先の管理者を対象に、成長の度合いを測るために「本学におけるまなびの卒後活用度調査」という名称で行ったアンケートの結果について説明を行った。

(3) 「アセスメントプラン（旧アセスメントポリシー）」に基づく FACTBOOK の作成と公表

アセスメントプランとは、学生の学修成果と大学としての教育成果の評価（アセスメント）について、その目的や達成すべき質的水準、評価の実施方法について定めた学内の方針のことである。令和 5 年度に初めてアセスメントプランに基づき作成したファクトブックについて説明を行った。

(4) 「看護師のリカレント教育」および「高度実践看護職に対する臨床でのニーズについて」

現在、新たに僻地や島嶼部でのプライマリケアを担う人材育成としてのリカレント教育（学位なし）と修士課程実践者コース、もしくはナースプラクティショナーのプログラムを設けることを検討しているとの説明を行った。

【3つのポリシーとアセスメントプランを踏まえた本学の教育についての意見・質疑応答】

(意見) 教育プログラムが良くできているので、ある程度実践能力が評価された学生が入職している印象がある。これから国際的な視点で自分たちが行っているケアを評価する視点が必要だが、臨床現場においてはなかなかそれを発揮する場面がない。国際化に対応するプログラムもあり、広い視野を持った方が入職されるので臨床現場での支援としての仕組みを整えていきたい。

(意見) 専門学校と比較すると大学の方が様々な取り組みをしていると驚かされる。大学が取り組んでいる教育は素晴らしく、入職した新人が今後どのようなようになっていくかを見ていきたいが、現場での体制が追い付いていないと感じる。

(意見) 新人と面談してみると、入職前から人生設計を考えていて、長く勤めたいという傾向が強くなっている。大学で社会人基礎力を養い、仕事を始めてからも活かされていると感じている。

(意見) ヒューマンケアリングセンターの地域連携部門の活動報告を拝見させてもらい、社会福祉協議会との共催で開催した認知症サポーター養成講座へは、参加した学生たちの満足度が高く、理解して頂けたのはありがたい。また、学生たちが地域のボランティアとして、夏祭り、障害者スポーツ大会の救護、クリスマス会の手伝いなど様々な活動に協力して頂けている。これからも連携させて頂ければ非常にありがたいと思っている。

【その他の意見・質疑応答】

(質問) 国際プログラムや多職種連携教育など基礎教育に力を入れているようだが、どのような形で育成されているのか。

(回答) 国際社会において看護の担う役割を国際的な視野で認識できるように国際救援プログラムを設けており、その科目の中で物事をグローバルに捉えられるようカリキュラムを組んでいる。これにより、視点を広げて学習につなげてもらいたいと考えている。

多職種連携教育については、総合実習等でチームとして多職種連携を意識した実習目標を立て、実際に参加して学習してもらう形となっている。

また社会人基礎力を高めることを目標に、病院以外の施設に学生が赴き自分たちで企画・調整する看護の基盤実習がある。主体性を発揮できる柔軟な内容だが、かなり準備しないと乗り越えられない実習プログラムでもある。

(質問) 発達障害などの診断を受けている職員や子供が診断されている者がおり、多様性に合わせた適正な職場環境が求められているが、現場での働き方に苦慮している。大学では支援が必要な学生に対してどのようなサポートをしているのか。

(回答) 学生にそういった自覚があり自分の合っているところに就職する者はいるが、自覚がなく就職して苦勞する場合もある。大学では多様な学生が増えてきており、本人の申請に基づき合理的配慮を行っている。難しい場合もあるが、模索しながらひとつひとつ対応している。

(意見) 病院としても修学を勧めたいと考えているが、学びたくても働きながら休みを取って受講することはなかなか難しい。金銭面や休職期間などの勤務体制の問題があり、病院の修学制度の見直しが必要だと考えている。

(意見) 大学院教育と言えど、学位のない研修レベルのジェネラリストの養成は非常にニーズが高いと思う。病院としては様々な支援体制を作りながら計画的に育成したいと思うところではあるが、在職しながら学べるような場があれば希望者は出てくると思う。教育の提供があれば看護師にとって学びの場が広がり、活躍できるのではないかと考える。

(意見) 学びたいと考えている看護師はいるが、様々な要因で難しい場合がある。リカレント教育は、定年を見据えた時間と金銭に余裕がある50代の看護師がいいのではないかな。需要としては増えていくと思う。

【まとめ】

(座長) 優秀な看護師を育成するために、頂戴した意見を参考に今後の大学運営に生かしていきたい。